

未来の東京に向けた水辺整備のあり方検討会（第1回）議事要旨

日時：令和4年8月26日（金）14:00～16:00

主な意見は以下のとおり。

- ・今後のあり方を議論する上で、これまでの事業の評価を整理する必要がある。
- ・隅田川と荒川の治水上の役割を認識した上で検討していくべき。荒川の浸水想定等の情報を共有してもらいたい。
- ・安全と魅力の両面を議論すると、水辺を活かしてどのように沿川地域の魅力を向上するのか考えられるのではないか。
- ・水の都ひろしま構想では、「つかう、つくる、つなぐ」を3つの柱としていた。こうした基本要素を踏まえ、どのように個性を出すかがポイントである。
- ・上流域と下流域で特性に違いがある。訪問者と居住者によっても感じる魅力が異なる。「にぎわい」は活性化するイメージであり、「潤い」は人が元気になるイメージがある。そういった特性の違いや、これまでの取組を踏まえて、どのように進めていくか検討すべき。
- ・防災意識を高めるために利活用を進めるといった基本的な考え方を示すべき。
- ・沿川地域と連携し、沿川全体としての構想として、大きな見取り図のようなものをつくることが重要である。
- ・水辺のゆとりを活かし、現実的な提案も盛り込みつつ、船や自転車、新しいモビリティ、DX、水辺で仕事ができるのか等、未来に向けた検討ができると良い。
- ・1つの川として、テラスのデザインなどに上下流の統一感が出てくると良い。
- ・水辺の拠点、街道と河川の交点や荒川との繋がりに配慮して選定するとよい。加えて、すでに川とまちを一体的に整備している箇所も拠点として適している。
- ・水辺は地域の人々が集える場所であるべきだと思うが、水辺にどうやって人を集めるかが重要であり、その仕組みがないと継続的に発展していかない。

- 上流域の防災船着場を日常的に利用できるよう、下流域の取組等を踏まえて、うまく活用していきたい。
- 水辺の魅力向上と治水を一体的に議論することが重要。例えば、高台や近隣の商業施設と堤防を繋げることで堤防天端が避難動線になる。
- 拠点間を連続的につないでいくストーリーも必要ではないか。テラスの不連続箇所をどのようにしていくか。
- ウォーキングやジョギング等の利用者からテラス照明の要望がある。夜間、暗く危険な箇所があるため、照明整備を進めてほしい。
- 沿川に公園等がある場合は、ランニングステーション等の生活環境を高める施設があると良い。また、水辺はサードプレイスとしての役割があると考えている。
- ハードとソフト両面の仕掛けを官民で仕掛けていくことが重要。
- 沿川地域の水辺活用の方針やまちづくりのビジョン、公園マスタープラン等の関連する取組と連携して検討するとよい。また、沿川地域のシティプライド、輝かせたいポイント等も踏まえて検討できると良い。